

視点

View Point

はやせのぶき
早瀬 伸樹 氏

独立行政法人国立高等専門学校機構
長野工業高等専門学校校長

製造業が盛んな長野で、長野高専へ寄せられる期待の大きさを強く感じています。本学では、**地元企業の皆様との連携を通じて、知識や技術のみならず、「コミュニケーション能力、チームワーク力、課題解決力に秀でた学生を育てながら、地域の活性化や地域の振興に貢献したいと願っています。**お困りのことがございましたら、お気軽にご相談ください。

地元企業との連携を通じて、地域の活性化に貢献します。

PROFILE
1962年愛媛県生まれ。民間企業勤務を経て1998年より新居浜工業高等専門学校に勤務。新居浜工業高等専門学校で教授、副校長等を経て2025年4月より現職。

豊かな創造性・人間性と開かれた心を養う

—— 長野高専の印象、教育のあり方について
どう感じられていますか。

早瀬 1年生から制服のない自由な校風ですし、学生にも自主、自律の気質を感じます。また、教育理念「**優れた技術者は、優れた人間でなければならない**」はとても素晴らしいと思いました。高専に通い、普通に勉強すれば、基本的な技術を身につけることはできるでしょう。しかし、身につけた技術を社会へ役立てるには、その人が優れた人間でなければなりません。技術は良い使い方をしないと社会のためにならないからです。だから本学では、その理念を実現すべく、学生たちが**各々の夢を追求めるなかで、豊かな創造性・人間性と開かれた心を養えるよう、その基礎となり、専門科目を学ぶ前提ともなる一般科目の学習に力を入れています。**学生たちにはさらに、学校の外でも人間性を磨いて、社会に出てほしいと願っています。

本校の教育の特徴は、PBL（課題解決型学習）を数多く取り入れている点にもみられます。たとえば、4年生のエンジニアリングデザイン実践では、実際に生じている地元企業や地域課題をいただき、その課題解決へ向け専門分野の違う学

生がグループを組んで1年間取り組みます。最終的にその成果を**社会実装、つまり社会に還元できるかたちにもっていくのが狙い**です。これまで習得した知識や技術を活かす機会であるのみならず、学校外の人と話すコミュニケーション能力、チームワーク力の養成、今の世の中にある課題を解決する新しい産業をつくることができる人財の育成にも寄与していると考えます。

長野高専技術振興会の存在の大きさ

—— 地元企業との連携についてどうお考えですか。また、本誌読者へメッセージをお願いします。

早瀬 産学連携については、長野高専技術振興会の存在が大きいです。長野県内の企業・団体関係者が発起人となり、2001年に設立された同振興会は、本校の教育・研究活動の成果が有効に地域産業界に還元されるよう、企業と本校相互の交流連携拡大に努めてくださっています。全国の高専に同様な組織がありますが、360社にのばる会員企業の数トップクラスです。

会員の方には高専OBも多く、地元企業と高専の橋渡し役を務めていただいています。先ほど申し上げたエンジニアリングデザイン実践のテーマも、振興会の会員企業からたくさんいただい

地元企業や地域の期待に応える人財育成を

—— 早瀬様はこの4月に長野高専校長に就任されました。抱負をお聞かせください。

早瀬 近年、中学生の数が減少し、これに伴い高校の再編が行われています。そんななか、高専は新設されたところもあり、これから設置しようとしているところもあります。その背景には、高専卒業生に対する評価の高さがあると思われます。とりわけ、スタートアップや起業家を育てようと日本全体が盛り上がっている今、高専が輩出する実践的で創造的な技術者への期待が高まっています。高専の学生は理論だけではなく、実際に自分の手でものをすることができずから。また、あえて高専を選ぶ学生の多くに見受けられるフロンティア精神やチャレンジ精神、決断力といった資質も、スタートアップや起業家に求められているのではないのでしょうか。

長野へ赴任するまで関西での暮らしが長かった私にとって、信州はたいへん自然豊かで、りんごやぶどうなど果物がたくさんとれる場所というイメージでした。実際に長野へ来て、諏訪地域で精密工業が盛んなことは以前から知っていたものの、全県で電子部品や機械など製造業が盛んなことを知りました。そして、こうした企業の皆様から、高専における人財育成と卒業後の人財供給について大きな期待を寄せられていることを強く感じています。そのご期待に応えていきたいと思っています。

います。たいへんありがたいことです。長野高専卒業生の県内就職率は35〜40%ほどと、他の高専と比べて高く、**学生の地元愛が深いのも振興会の存在あればこそだと思っています。**

長野高専のように県庁所在地にある高専は、実は珍しい存在です。県庁所在地には国立大学をつくり、高専は第二の都市に置くことが多いからです。長野県の場合、信州大学が「タコ足キャンパス」を展開していることが背景にあったのでしょうか。最大都市の長野市に高専があることが、地域連携のしやすさにもつながっています。

高専の役割は、地域の活性化や地域の振興に貢献することです。今後も地元企業の皆様をはじめ、長野県や長野市といった自治体や信州大学とも共同研究等を通じた連携を強化しながら、地域のお役に立てたらと願っています。

本校では昨年10月に、地元企業と協力して地域産業の課題解決を目指す長野高専オープンラボを設けました。窓口は地域共同テクノセンターになっています。**敷居は全く高くありません。**お困りのことがございましたら、お気軽にご相談ください。お待ちしております。

DATA
長野工業高等専門学校
[創立] 昭和38年
[所在地] 長野市大字徳間716
[TEL] 026-295-7003 (代表)

横顔

休日にはまちを散策する。「長野へ来て初めて林檎の花を見られて感動しました。日帰りの天然温泉に時々出かけます」と話す。